

「菩提樹」植樹セレモニー 次第

平成23年11月20日(日) 午前10時30分 (於) 平尾亥開公園

1. あいさつ

大正ドイツ友好の会 会長 中道良明様
大正区役所 区長 筋原章博様

2. 来賓紹介

ドイツ総領事館様 ほか

3. 植樹

大正ドイツ友好の会会長 ほか

4. 説明板披露

5. 祝辞

ドイツ総領事館 スヴェン・クーナート様
市会議員 小原孝志様

6. 記念合唱

「野バラ」「菩提樹」ほか

【菩提樹植樹説明板】

「西洋菩提樹」(Lindenbaum)

第一次世界大戦の結果、ドイツ兵を収容した「大阪俘虜収容所」が、当公園の東側に開設（大正3年、1914年）されたことに因み、大正ドイツ友好の会により、平成18年に当公園内に「大阪俘虜収容所碑」が設置されました。それとともに、鳴門での日本最初の「第九」演奏の指揮者であるヘルマン・ハンゼン氏が当収容所にもいたことから、平成19年より大正区民合唱団による「第九」演奏ほかドイツセミナーなどの日独友好事業も開催されてまいりました。平成23年、日独交流150周年記念事業の年に、これまでの大正区での活動が評価され、自由の象徴として今もドイツ国民に親しまれる「西洋菩提樹」がドイツ政府から（社）大阪日独協会を経て贈られました。

平成23年(2011年)11月

大正ドイツ友好の会・大正区民合唱団「大正フロイデ」

ひらお いびらき

平尾亥開公園と大阪俘虜収容所

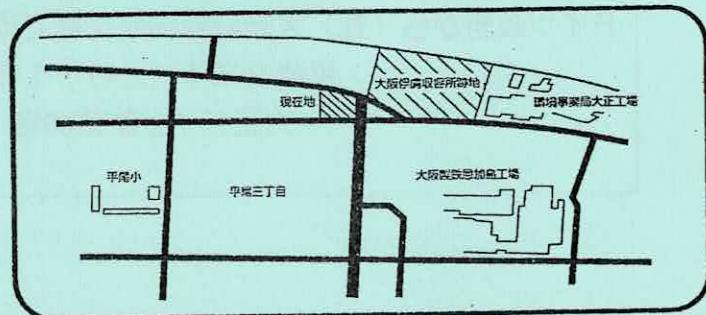


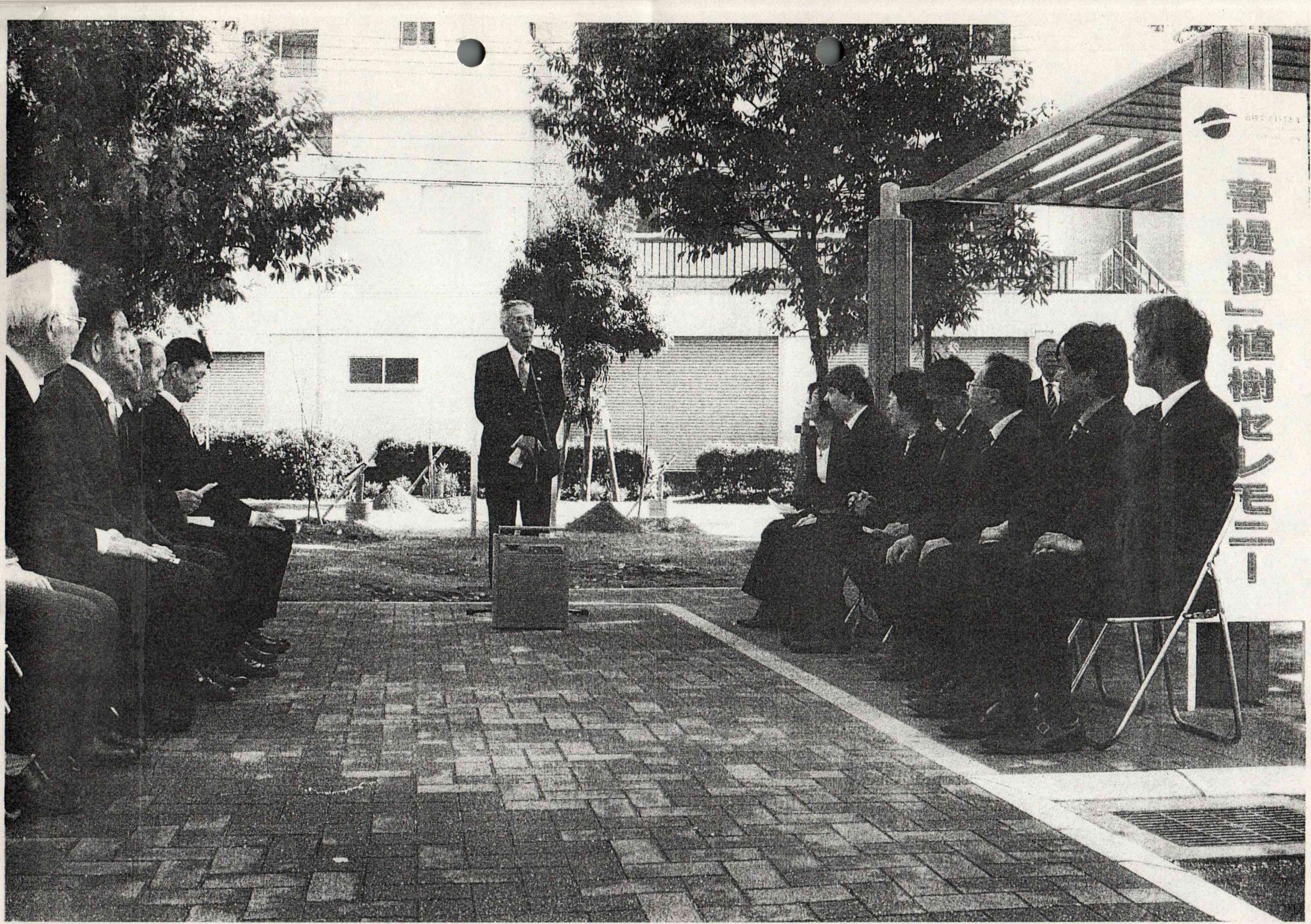
大阪俘虜収容所全景

(鳴門市ドイツ館所蔵)

平尾新田は大坂江戸堀（現西区）の平尾与左衛門が開発し、明和8年（1771年）に幕府の検地を受けました。その地域の中に「亥」の年に開発されたことに因み、「亥開」と呼ばれる所（現在の南恩加島抽水所あたり）がありました。この地名から名称を取ったこの「平尾亥開公園」の東側で木津川に面したところ（現在の南恩加島1丁目）に、明治41年（1908年）にペスト患者隔離所が新設されましたが、その施設は、明治42年（1909年）の北区の天満を火元とするいわゆる「北の大火」と呼ばれる火事で罹災した延べ約22,000人の市民を収容し、所内には小学校も開設されました。

その後、第一次世界大戦の結果、大正3年（1914年）11月、中国にいたドイツ兵などの捕虜収容所が、日本各地（12箇所）に設置された時、大阪においてはこの施設が「大阪俘虜収容所」として使用され、軍人など760人を収容いたしました。捕虜は収容所にあっては、毎日の生活として朝夕2回の点呼を受ける以外の労働は特になく、娛樂として、読書、絵画、演劇、音楽、あるいはテニスやフットボールおよび器械体操などのスポーツを楽しみました。その様子を撮影した写真も現存しています。大正6年（1917年）2月、大阪俘虜収容所は閉鎖され、似島（広島市南区）へ移転しました。

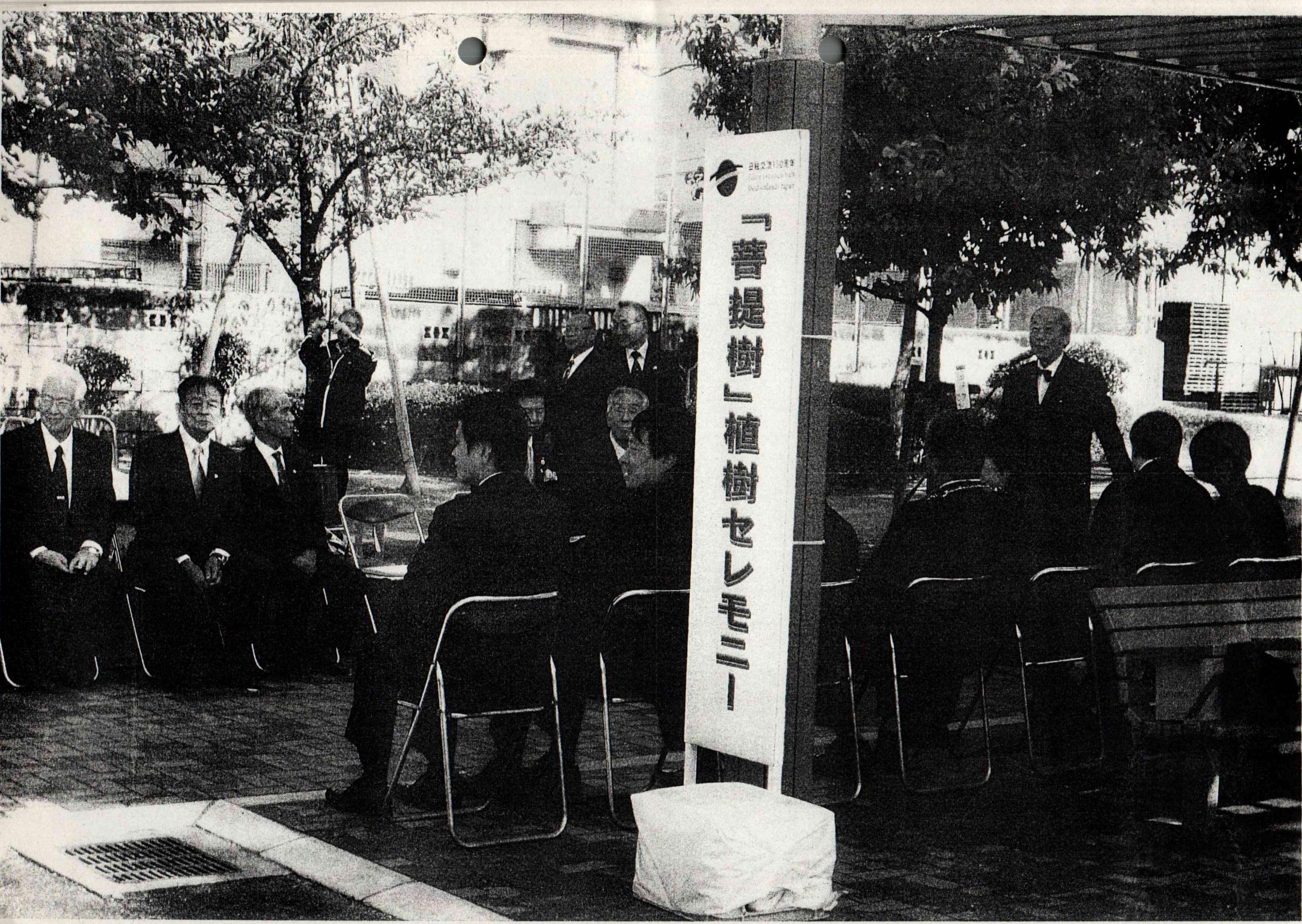












「普提樹」植樹セレモニー

日荷交流10周年
日荷友好邦交正常化記念
1978年10月1日



